

「若者の生活とライフイベントに関する調査  
研究」報告書

2024年4月

北翔大学短期大学部 こども学科  
准教授 保田 真希

## 目次

---

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| はじめに .....                           | 2  |
| 1.研究目的.....                          | 2  |
| 2.研究手法.....                          | 2  |
| 3.倫理的配慮 .....                        | 3  |
| I． 江別市で働く若者へのアンケート調査から .....         | 3  |
| 1.江別市で働く若者（20代・30代）へのアンケート調査から ..... | 3  |
| II． 市への要望 .....                      | 11 |
| III． 調査のまとめ.....                     | 13 |
| 謝辞.....                              | 13 |

## はじめに

### 1. 研究目的

現在、日本国内においても、家族や結婚のありかた、働き方が多様化している。一方で、労働や社会保障から漏れて、生活が不安定になる人もいる。特に、高齢期と若年期の生活が不安定であり、「高齢期の貧困」や「若者の貧困」の問題が生じている。高齢期の貧困、とくに高齢女性の約3割が貧困状態であることが明らかになり、今後も貧困率が上昇することが予測されている。その背景には、扶養の問題や働き方、特に非正規雇用の増加が関係している。「労働力調査」を年齢階級別にみると、非正規雇用の職員・従業員数は2100万人を超過し、「15-24歳」が約5割、「25-34歳」が約3割を占め、若年期の就労が不安定化している。若年期にどのような生活を営んでいたかが高齢期の生活状況に影響を及ぼしている。また、未婚化や晩婚・晩産化なども社会問題の1つとして取り上げられている。

そこで、本研究の目的は、江別市で生活する学生や若者に対してアンケート調査を行い、①学生の生活構造と就労や定住意識、②江別市内で働く若者（20代・30代）の生活構造やそこに生じる困難の構造、ライフイベントや定住に関するニーズや課題などを明らかにし、若者の貧困対策やライフイベント（結婚・妊娠・出産）や定住に関する支援を前身させることである。

### 2. 研究の手法

江別市で生活する若者の生活構造と、サポート(大学や職場、友人、親など)や悩みの特徴等、ライフイベントや定住に関するニーズや課題を明らかにするため、①江別市内の4つの大学に通う学生、②江別市内で働く若者(20代・30代)を対象にアンケート調査を実施した。

◇大学生調査の主な調査項目は、①本人や家族（出身地、居住、資格等）②現在の生活（アルバイトの状況、サポート、つながり、相談相手等）、③希望する職種と勤務地、④市などへの要望等である。

◇若者調査の主な調査項目は、①本人や家族（家族構成や出身地、居住、介助が必要な家族の有無、最終学歴や資格、職歴等）②現在の生活（現在に至るまでの仕事とサポート、悩みと相談相手等）、③結婚観・家族観（本人の意識、周り（職場・友人・家族など）の理解やサポート、時間や経済面など）、④利用機関や市への要望等である。

図表1 調査の実施状況

※2024年4月11日現在

|         | 対象            |                                                                             | 調査時期       | 回答数  |
|---------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------|------|
| I 若者調査  | 江別市で働く20代・30代 | 教育・保育施設、小学校、児童発達支援事業所、児童センター、放課後児童クラブの103ヶ所に郵送。市役所、4つの大学、NPO法人などにメールで依頼文を配信 | 2024年2月～3月 | 133名 |
| II 学生調査 | 江別市内の大学に通う学生  | 江別市内の4つの大学に通う学生                                                             | 2024年3月～4月 | 104名 |

### 3. 倫理的配慮

本研究は北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部研究倫理審査で承認されたものである。江別市で働く若者（20代・30代）や江別市内の大学に通う学生に対し、調査の趣旨や概要、断ってもよいこと、データの取り扱い方法などを記載した依頼文を郵送による配布またはメール

にて依頼文を配信した。協力が得られる場合は、依頼文に記載した QR コードを読み取り、WEB 上でアンケートに回答してもらう形で実施した。その際、全て無記名で、メールアドレスも回収しない形にし、協力者の匿名性の保障と個人情報の保護を行った。

## I. 江別市で働く若者に対するアンケート調査から

本章では江別市内で働く若者（20 代・30 代）に対して実施したアンケート調査の結果を中心に整理していく。

### 1. 江別市で働く若者の生活に関するアンケート調査

#### (1) 調査の概要

江別市役所および各大学、教育・保育施設、小学校、NPO 法人のご協力を得て、2024 年 2 月～2024 年 3 月までの約 1 ケ月間に、各機関を通じて、調査の趣旨や QR コードを記載した依頼文を配布し、アンケート調査を実施した。本調査は、QR コード読み取りによるアンケート調査である。その結果、回答が得られたのは、133 名である。本章では、世帯の状況、仕事の状況、サポート、つながり、市への要望などを中心に結果を整理していく。

#### (2) 世帯の状況

##### 1) 回答者の年代別にみる家族形態

回答者の年代別にみる家族形態は 30 代の「両親世帯」が 54 名で約 4 割を占めていた。

図表 2 回答者の年代別にみる家族形態 N=133 (単位：人)

|       | 家族形態 |      |            |      |            |      |            |     | 合計  |
|-------|------|------|------------|------|------------|------|------------|-----|-----|
| 本人の年代 |      | 両親世帯 | 祖父母同居の両親世帯 | 父子世帯 | 祖父母同居の父子世帯 | 母子世帯 | 祖父母同居の母子世帯 | その他 |     |
|       | 20代  | 35   | 3          | 2    | 1          | 6    | 1          | 9   | 57  |
|       | 30代  | 54   | 2          | 0    | 0          | 3    | 0          | 17  | 76  |
|       | 合計   | 89   | 5          | 2    | 1          | 9    | 1          | 26  | 133 |

##### 2) 婚姻関係別にみる家族形態

次に、婚姻関係を見ていく。その結果、「既婚」が 77 名(57.9%)で、「未婚」が 56 名(42.1%)だった。およそ、半数ずつの回答を得ることが出来ている。

図表 3 婚姻関係別にみる家族形態 N=133(単位：人)

|      | 家族形態 |      |            |      |            |      |            |     |    |
|------|------|------|------------|------|------------|------|------------|-----|----|
| 婚姻関係 |      |      | 祖父母同居の両親世帯 |      | 祖父母同居の父子世帯 |      | 祖父母同居の母子世帯 |     |    |
|      |      | 両親世帯 |            | 父子世帯 |            | 母子世帯 |            | その他 | 合計 |
|      | 既婚   | 62   | 2          | 0    | 0          | 0    | 0          | 13  | 77 |
| 未婚   | 27   | 3    | 2          | 1    | 9          | 1    | 13         | 56  |    |
| 合計   | 89   | 5    | 2          | 1    | 9          | 0    | 26         | 133 |    |

##### 3) 移動タイプ別にみる居住地

移動タイプ別にみると、江別市在住で別の地域から移住した「転入型」が最も多い(図表 3)。

図表 3 移動タイプ別にみる居住地

N=133

|     |        | 無回答 | 移動タイプ                                           |                             |                                  | 合計  |
|-----|--------|-----|-------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|-----|
|     |        |     | ご自身の出身地で、<br>他の場所で暮らした<br>時期もあるが戻って<br>きた（Uターン） | 生まれてからず<br>っと住んでいる<br>（定住型） | 別の町で生まれたが、<br>就職などで移住した<br>（転入型） |     |
| 居住地 | その他    | 0   | 2                                               | 3                           | 7                                | 12  |
|     | 江別市    | 1   | 18                                              | 19                          | 53                               | 91  |
|     | 札幌市    | 0   | 4                                               | 8                           | 14                               | 26  |
|     | 石狩郡当別町 | 0   | 0                                               | 0                           | 1                                | 1   |
|     | 北広島市   | 0   | 1                                               | 0                           | 2                                | 3   |
| 合計  |        | 1   | 25                                              | 30                          | 77                               | 133 |

#### 4) 同居人の有無と婚姻関係

次に、同居人の有無と、結婚しているか否かについて整理をした(図表 4)。その結果、133 名のうち、「同居人いる」が 104 名()で、そのうち、既婚者が 75 名()だった。

図表 4 婚姻関係別に見る同居人の有無

N=133

|     |     | 婚姻関係 |    | 合計  |
|-----|-----|------|----|-----|
|     |     | 未婚   | 既婚 |     |
| 同居人 | いない | 27   | 2  | 29  |
|     | いる  | 29   | 75 | 104 |
| 合計  |     | 56   | 77 | 133 |

#### 5) 子どもの人数

次に、子どもの人数をみていく。「子どもはいない」が 78 名で最も多い。次いで、「1 人」が 26 名、「2 人」が 25 名、「3 人以上」が 4 名である。

#### 6) 毎月、返済しているもの

「毎月返済しているものはありますか」で得られた結果をまとめていく。「返済しているものはない」が 41 名で約 3 割を占めて最も多い。次いで、「家のローン」が 35 名、「奨学金」が 26 名、「車のローン」が 24 名、「その他」が 3 名である。

### (3) 仕事

#### 1) 婚姻関係別にみる年収

婚姻関係別に年収をみていくと、既婚の場合は「300 万円-400 万円未満」が 24 名で最も多く、次いで「400 万円-500 万円未満」が 17 名で、フルタイムで働いていることが読み取れる。

図表 5 婚姻関係別にみる年収

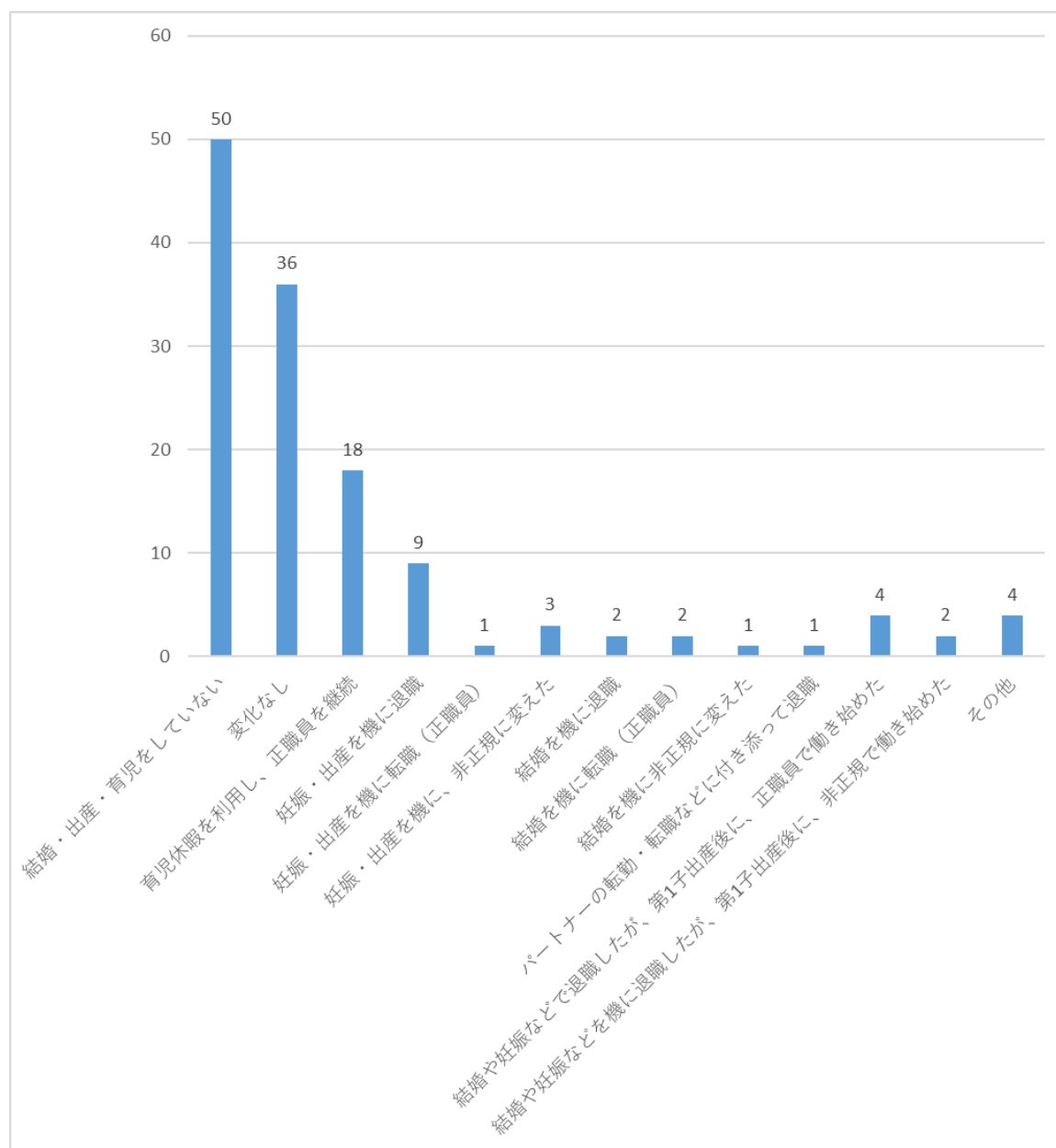
N=133

|          |    | 年収  |                       |             |                       |                       |                       |                       |                       |                       |                       |                       | 合計  |
|----------|----|-----|-----------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|          |    | 無回答 | 103万円<br>～130万<br>円未満 | 103万<br>円未満 | 130万円<br>～150万<br>円未満 | 150万円<br>～201万<br>円未満 | 201万円<br>～300万<br>円未満 | 300万円<br>～400万<br>円未満 | 400万円<br>～500万<br>円未満 | 500万円<br>～600万<br>円未満 | 600万円<br>～700万<br>円未満 | 700万円<br>～800万<br>円未満 |     |
| 婚姻<br>関係 | 未婚 | 0   | 2                     | 2           | 2                     | 7                     | 18                    | 8                     | 9                     | 7                     | 1                     | 0                     | 56  |
|          | 既婚 | 1   | 5                     | 2           | 1                     | 2                     | 11                    | 24                    | 17                    | 10                    | 3                     | 1                     | 77  |
| 合計       |    | 1   | 7                     | 4           | 3                     | 9                     | 29                    | 32                    | 26                    | 17                    | 4                     | 1                     | 133 |

## 2) 結婚・妊娠・出産等による仕事の変化

次に、結婚・妊娠・出産等による仕事の変化を整理していく(図表 6)。「結婚・出産・育児をしていない」が 50 名で最も多い。次いで、「変化なし」が 36 名、「育児休暇を利用し、正社員を継続」が 18 名である。仕事の継続において、総じて変化が少ない。

図表 6 結婚・出産・育児による働き方の変化

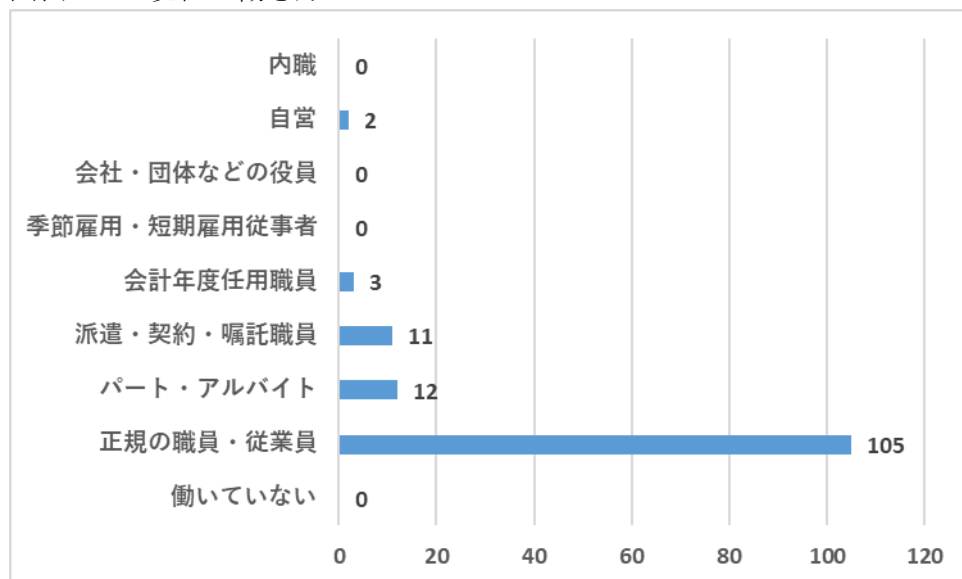


### 3) 現在の働き方

現在の働き方（図表 7）をみると、「正規の職員・従業員」が 105 名 (79.1%) で最も多い。非正規雇用は、パートや派遣などをあわせると、2 割に満たない。

図表 7 現在の働き方

N=133



また、職種をみていくと、「専門的職業」が 87 名 (65.4%) で最も多い。次いで、「事務職」が 39 名 (29.3%)、「サービス職」が 3 名 (2.3%)、「管理的職業」が 2 名 (1.5%)、「営業」が 1 名 (0.8%) であった。

### 4) プライベートな時間の有無

普段、プライベートな時間を持てているかについては、「どちらかというともてている」が 60 名で最も多い。次いで、「どちらかというともてていない」が 44 名、「十分もてている」が 24 名、「全くもてていない」が 5 名であった。

#### (4) ケアとサポート

##### 1) ケアの配分

ここでは、「普段、掃除・洗濯・食事の支度、ゴミ捨てなどの家事はどのように行っていますか」で得られた結果を整理していく。その結果、「同居人・同居家族と協力して行っている」が 99 名でもっと多かった。次いで、「全て自分が行っている」が 33 名、「同居していない家族が協力してくれている」が 1 名であった。

一方で、家事をして大変さを感じるかどうかについては、「あり」が 106 名で約 8 割が家事の大変さを感じている状況であった。

##### 2) 家事や育児のサポート

図表 8 のように、家事と育児のサポートについては親、実家からのサポートに依拠している。家事に関しては約 4 割の人が誰からもサポートを得ていない状況である。また、育児に関しては子どもがいる 55 名のうち、約 3 割が誰からもサポートを得られていない。

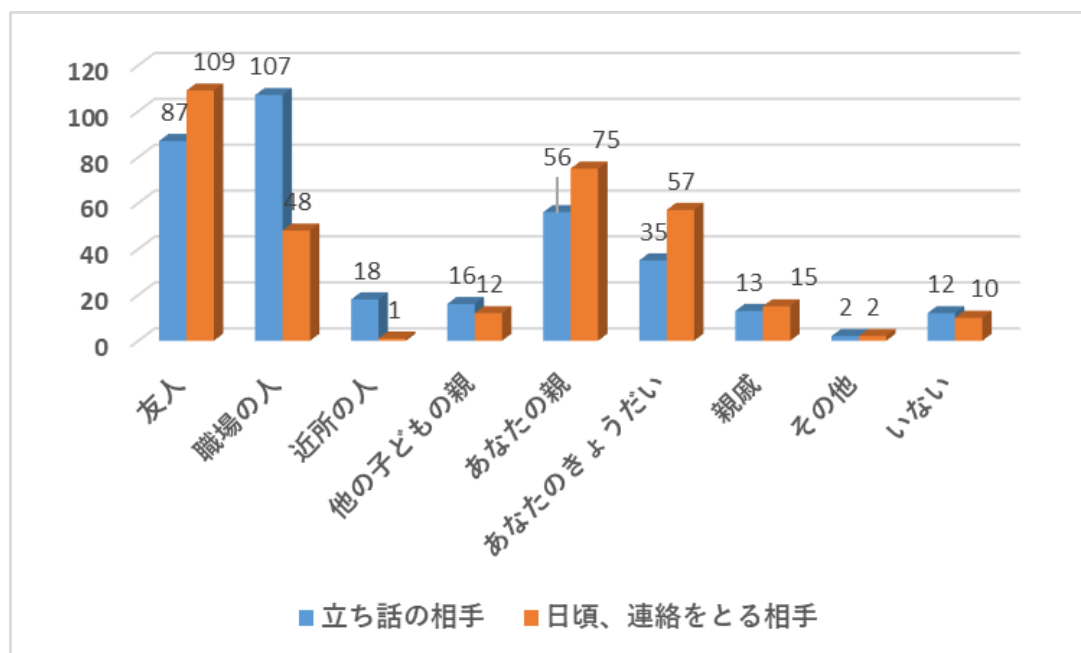
図表 8 サポート

|             | 家事 | 育児 |
|-------------|----|----|
| 親           | 74 | 44 |
| きょうだい       | 17 | 8  |
| 親戚          | 3  | 2  |
| 友人          | 5  | 2  |
| 職場関係の人      | 0  | 0  |
| その他         | 2  | 4  |
| いない         | 53 | 17 |
| こどもは<br>いない | —  | 68 |

## (5) 社会関係

ここでは、①日頃立ち話をするような付き合いのある人、②日頃、気軽に電話やLINE、メールなどで連絡を取り合う人、③悩みと相談相手について結果を整理していく。

図表 9 立ち話をする相手と日頃連絡をとる相手（複数回答）



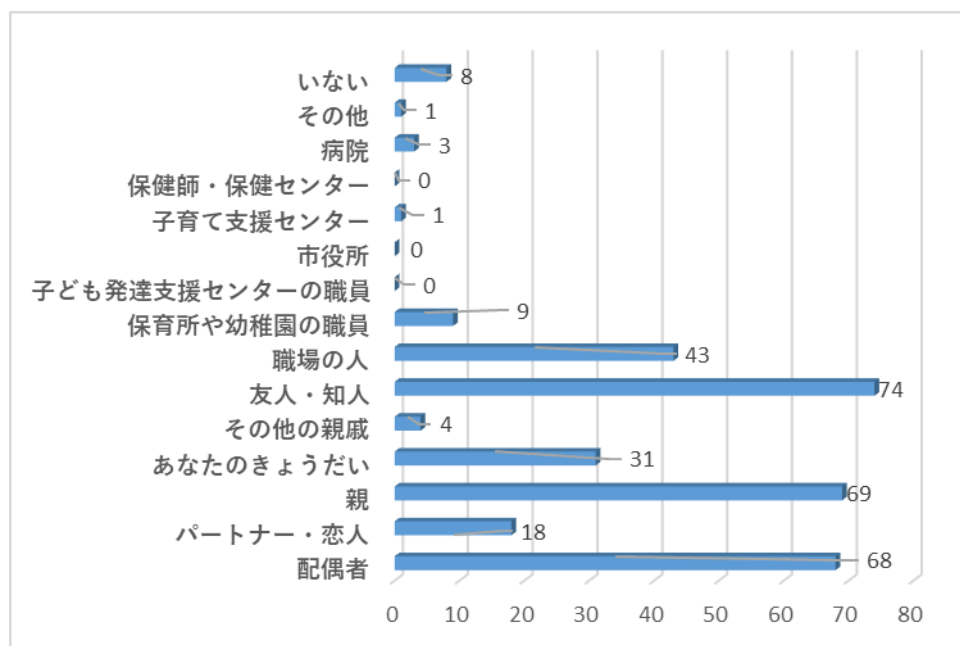
立ち話をする相手(図表 9)をみると、「職場の人」が 107 名(80.5%)で最も多い。次いで、「友人」が 87 名(65.4%)である。一方で、日頃、気軽に連絡をとる相手は、「友人」が 109 名(76.8%)、「親」が 75 名(56.4%)である。

相談相手(図表 10)をみると、「友人・知人」が 74 名で最も多い。次いで、「親」が 69 名、「配偶者」が 68 名である。

このように、公的な機関に相談するよりは、気心が知れて、気軽に相談できる親族や友人などの本人がもつ関係性に依拠していることが読みとれる。

図表 10 相談相手

(複数回答)



## (6) 結婚についての考え・ためらう理由

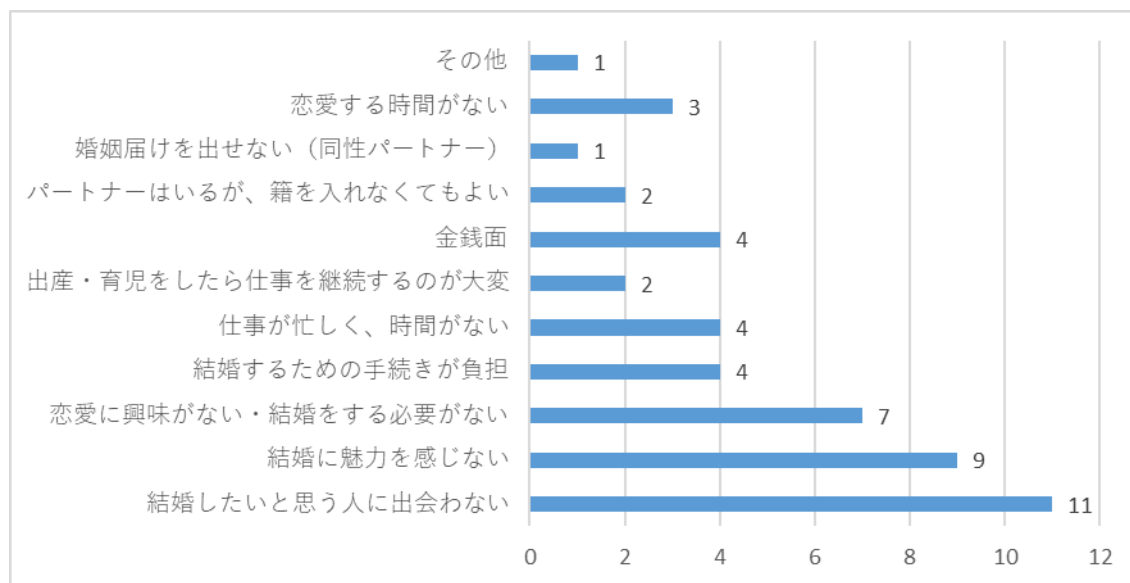
未婚のかたで、「将来、結婚（法律婚・事実婚）をしたいと思いますか」という設問では、「思う」が 33 名で最も多く、「今はわからない」が 14 名、「思わない」が 8 名だった。

図表 1 週間の平均労働時間別にみる結婚観

|                          |         | 1週間の平均労働時間  |             |             |             |             |            |             | 合計  |
|--------------------------|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----|
|                          |         | 10時間～20時間未満 | 20時間～30時間未満 | 30時間～40時間未満 | 40時間～50時間未満 | 50時間～60時間未満 | 5時間～10時間未満 | 60時間～70時間未満 |     |
| 将来、結婚（法律婚・事実婚）をしたいと思いますか | 非該当     | 3           | 3           | 15          | 30          | 7           | 18         | 2           | 78  |
|                          | 今はわからない | 0           | 0           | 0           | 7           | 2           | 4          | 1           | 14  |
|                          | 思う      | 2           | 1           | 7           | 5           | 9           | 9          | 0           | 33  |
|                          | 思わない    | 3           | 0           | 2           | 1           | 2           | 0          | 0           | 8   |
| 合計                       |         | 8           | 4           | 24          | 43          | 20          | 31         | 3           | 133 |

次に、「結婚についての考え方、ためらう理由があるとしたらどのようなことですか」で得られた結果を整理していく（図表）。「結婚したいと思う人に出会わない」が 11 名で最も多く、「結婚に魅力を感じない」が 9 名、「恋愛に興味がない・結婚をする必要がない」が 7 名であった。結婚に対して肯定的な考えをもっているが、出会いがないものと、時間のなさ、結婚に伴う負担にわかれていた。

図表 結婚をためらう理由（複数回答）



#### (7) 江別市で働くにあたってサービスの充実度

「江別市で働くにあたり、若者に対する支援やサービスは充実していますか」で得られた結果を整理していく。「どちらともいえない」が67名(50.4%)で最も多い。次いで、「どちらかというとう充実している」と「どちらかというとう充実していない」がそれぞれ23名である。「全く充実していない」が12名、「十分充実している」が3名でした。

#### (8) 江別市内で働く上で必要なサービスや支援（意見や要望）

- ・飲食店やアウトレットモールなどの充実
- ・高齢者支援や子育て世帯の支援に重きが置かれていて、その狭間にいる若者の層に向けた支援があまり充実していないような気がしています。江別市には4つも大学があり、学生が多く住んでいるので、若者にとっても暮らしやすいと思えるまちづくりができれば…と個人的に思います。これは少し違う視点の意見になりますが、せっかく市内に大学生が多くいるのであれば、大学同士でのつながりももてるといいと考えています。例えば、それぞれの大学の学生同士で勉強や交流ができる月額制コミュニティスペースがあったり、音楽サークル同士でセッションや発表ができるミニライブハウスがあったり、映画好きな学生やお年寄りが交流できるシネマカフェがあったり…好きなこと・趣味でつながれる場があると、さらに地域の人たちの活発な動きが生まれるのではないかと思います。
- ・子育て支援の充実
- ・学童の開設時間の延長。ファミリーサポートの支援内容を増やしてほしい（ぜんそくの吸入を支援員が出来るようになるなど）
- ・子どもが自由に遊べる児童館が増えるとよい。
- ・江別市に保育園を増やして欲しい。認定こども園の午前保育からの延長保育、春夏冬休みのお弁当持参をやめてほしい。給食を提供してほしい。1号認定から認定こども園に入園して、親が働くには大変すぎる。保育園の枠が少なすぎる。子供2人目産む事を考えられない。17時～18時まで勤務する事や、札幌市まで働きに行くのが難しく、必然的に江別市で短時間のパートしか探せない。保活が大変すぎる。家の近くではなくかなり広範囲で車を使って登園を考えて希望をださなくてはならない

- ・子どもを室内で遊ばせられるところを増やしてほしい。大きなところが良い。
- ・子育て世代の宅配サービス（食事）を割安で利用できると、働いて帰宅した後に、少しでも子供との時間を過ごせるようになって感じます。
- ・職種の選択肢が意外と少ない。江別市は人口の割に繁盛していなくそれに伴って仕事をする場所に限りがある。このご時世なのに在宅などの働き時代にあった職種がないと思う。
- ・子育て手当、受診無料、高校まで無償、入学進学お祝い金の支給などであると良い。
- ・病児保育が少ない。
- ・企業支援
- ・除雪をしてほしい。出勤前に除雪すると時間に余裕がない
- ・光熱費等の支援
- ・医療費補助の拡充
- ・給与をあげてほしい
- ・介護休暇の充実
- ・ICT 機器のサポート
- ・奨学金の返済支援や、移住者への住宅ローン負担など、若者への金銭的援助があれば良いと思います。
- ・障がい者雇用のサポートなど
- ・子どもが体調不良の時に休みやすい環境の整備
- ・子どもが熱などで預けられない時に見てくれる施設を増やしてほしい
- ・学童の場所が増えたり料金の補助があると嬉しい。
- ・保育士の家賃補助制度を5年ではなく、もっと延長してほしい
- ・江別の大学に通学する学生が卒業後、江別市外に出てしまう傾向があるため、江別市内の企業に就職を検討してもらえそうな環境づくり。
- ・江別市内に魅力的な企業がないという声もあるので、魅力的な企業の誘致。更には他市（主に札幌）で働いてしまったとしても、江別に住んでもらえそうな支援
- ・推し休暇を設けてほしい
- ・子どもを短時間で気軽に預かってくれる施設を増やしてほしい
- ・妻の有給数が少ないので、子供の病児保育で減給が続いています。有給数を増やすか、家族で有休を分け合えたら嬉しい。
- ・児童館の開館時間の延長

#### (8)仕事・結婚・出産・育児などのライフイベントにおいて必要サービスやサポート（北海道 や 江別市への意見や要望）

- ・ひとり親に対してのサービスやサポートを増やして欲しい
- ・市からのお祝い金や手当があると嬉しい。
- ・もっと若い世代が結婚できるような出会いを自治体が支援できるようにしたらよいと思う。子どもが大きくなったり、成長の節目に商品券や市で利用できる金券等をもらえると嬉しい。江別と札幌で子育てを経験しているが、保育料がかなりの負担。年間で40万程度かかってしまうので、2人目、3人目と働きながら子どもを産みたいと思っている若い世代には負担になっていると思う。もっと北海道は食や地域性のブランドが他都府県よりもあると思うので、若い世代への手厚いサービスと魅力の発信をもっとしていくべき。
- ・給与を上げてほしい
- ・病欠などの欠勤を特別休暇にしてほしい
- ・土日祝に子供を預かってくれる施設があると嬉しい
- ・育児支援金の手厚くなると良いと思う

- ・結婚をしても住宅手当を出してくれると嬉しい
- ・資金面でのサポートを充実してほしい。仕事においては休暇取得によるプライベート時間の確保を推進してほしい。
- ・室内の子どもの遊び場を充実させてほしい
- ・公的マッチングアプリの開発等を行ってほしい
- ・子どもへの医療費等の経済的支援が必要だと思います。給料は上がるが、保険料の値上げで手取りが増えない環境の中で、子どもを安心して産み育てられない状態にあるかと思われます。
- ・自分の子どもの体調不良で欠席した場合、有給消化になり有給が無くなれば減給になる。保育士不足と言いながらこんな対応、誰が保育士になりたいと思いますか？子どもは好きで働きたい。でもこの理由で免許持ちでも働きたくない人がどれほどいるかよく考えてほしい。
- ・シングルの家庭にももう少しサポートが欲しい。いくら正職員でもギリギリのラインで生活しており、支援の規定を越えてたら結局は生活が厳しい。保育園の頃は補助が出てても学校に行けば補助は出ないので負担は増える一方。スキー購入やランドセル購入、教材購入、給食費なども他の地域では補助が出ていたりする。家賃補助などもあるとすごくありがたい。物価は上がるばかりで保育士の給料は元々が低賃金なので毎年の昇給があってもマイナスになっていくばかり。保育士の家賃補助も5年ではなくもっと延ばしてほしい。
- ・小学生も遊べる大型室内遊具があると嬉しい。両親ともに仕事をしているが、子どもを見る関係で母がパートでしか働けない。主に母が子どもを見ているので、1人の時間が欲しい。
- ・育児にお金がかかってくるので支援して欲しい。今の状況だと2人目を産もうと思えない。
- ・最低限子どもの養育にかかる費用を収入制限等を設けずに支援してほしい
- ・出産の育休・産休の休暇みたいに結婚に対しても新婚旅行休暇などの全国的に広げて取りやすい社会にしてほしい
- ・出産費用等の補助金支給などをおこなってほしい
- ・子育ての関係で勤務時間の調整などを行ったときに、周りがそれを嫌だと思わないような空気感ができてほしいなと思います。職場の理解を得られるのであれば、子どもを安心して産めると思います。
- ・核家族でも働きながら子育てをサポートしてくれる制度あるといいです。すでにあるのかもしれませんが、お知らせとかなので分かりません。もっと情報を配信してほしい。
- ・出産、育児の補助金を増額してほしい。託児施設やサービスの増加と手軽な料金設定で実施してほしい。
- ・交通機関を自由に使えるお金を支給してほしい。江別駅周辺にスーパーがあると生活しやすい
- ・江別市独自の仕事手当みたいなのがあればいいのと思う。もし、もうあるならわかりやすく知らせてほしい
- ・子どもにお金がかかりすぎる。子どもの医療費の補助も遅すぎる。学童も何もかもお金が必要で、子育ての町とはいえない。
- ・教育に関わる支援や人材が増えるとよい。
- ・無料で子どもを預かる施設があるとありがたい
- ・江別市内でもっと働ける場所があると良い
- ・誰もが休暇を取りやすい街になってほしい
- ・ノンメディカルな卵子凍結保存への金銭的支援(助成金)があると助かる。女性が結婚とキャリアのどちらも選べるようになってほしい。
- ・子育て手当での充実、受診料の負担軽減又は無料、高校まで無償、入学進学お祝い金の支給などがあれば、
- ・もっとお店が増えて欲しい。特に服を買いたいのに買えるお店が少ない。わざわざ札幌まで行って買っている。子どもを連れて行けないういけないので、江別で買い物を済ませたいと思ってしまう。また、妊娠出産の支援が手薄である。ゴミ袋だけって言うのは少し腹立たしい。

また、ゴミ袋が高すぎる。ゴミは毎日出るし子どもがいるとすぐゴミ袋がいっぱいになるのに、ゴミ袋が高いのはなぜ？生活の必需品なのだから、もう少し手軽に買える値段にしてくれないと困る。それでなくても子育てしていたらお金がかかるし、今はなんでも高い世の中なのに市民の気持ちを何も考えていないのかと思ってしまう。

- ・オムツ支給されている町もあるので、江別もオムツ支給やミルク支給があると家計的にも少し楽になると思います。
- ・障がいのある子でもスムーズに保育園に入れるようにしてほしい。
- ・とにかく働くお母さんのために保育園の増設。共働きが当たり前の今の時代に江別市は保育園が少なすぎる。大麻～江別の端までかなり広いのに範囲を広げた保活が大変。認定こども園の午前保育からの延長保育、春夏秋冬休みの預かり保育のお弁当持参をやめてほしい。給食を提供してほしい。1号認定から認定こども園に入園して、親が働くには大変すぎる。春夏秋冬預かり保育週5お弁当はかなり朝の時間や買い出しなど働く親には手間。子供2人目産む事を考えられない。7時～18時まで勤務する事や、札幌市まで働きに行くのが難しい。必然的に江別市で短時間のパートしか探せない。でも、保活が大変すぎる。家の近くではなく、かなり広範囲で車を使って登園することを考えて希望をださなくてはならない。
- ・非課税世帯への補助金は多々あるが、課税世帯にも何か支援があると助かる。現在の物価高で中間所得世帯も苦しい状況なので、育児世帯への金銭の保障がほしい。
- ・土日に夫婦で羽を伸ばしたい時に、公共施設で子供を一時的に預かってくれるサービスがあると助かります。
- ・ぽこあぽこのような室内で遊べる場所が増えると嬉しい。デイサービスではなく、体操や思い切り走れる運動教室がもう少し増えると嬉しい。
- ・小学生の医療費の無償化。ファミリーサポートの負担軽減、助成金の支給など。
- ・子育て支援の充実。子供はまだいないが、補助金や保育施設の充実など、将来的に安心して子育てができるサポートを要望します。
- ・祝い金の支給または金券配布などがあると良い

### Ⅲ. 調査のまとめ

若者調査を通じて、明らかになったことは以下の4点である。

第1に、多子を望まない背景には、仕事と保育のありかたが関係していた。例えば、子どもの体調不良で有給休暇を消化することで欠勤扱いとなり、減給されたり、休みがとりにくい環境があること、預け先の確保に関する苦悩があった。保育園を選択する際にも、車での移動が必要となっている場合もあり、立地条件なども関係していた。これにより、2人目を諦めている状況があった。

第2に、正規の従業員・職員として働いている割合が8割を占めているが、労働時間と給与をみると高い金額とは言えない状況があった。これは全国の若者の平均給与額とさほど相違はないため、若者の生活そのものが全国的に不安定な状況は継続している。また、そこに、ローンや奨学金の支払いが発生していた。

第3に、結婚をためらう背景には、出会いや時間のなさ、結婚に伴う負担、仕事の継続性などが見られた。仕事以外のプライベートな時間の充実がはかれるように、休みがとりやすい環境にすることも必要であると推察できる。例えば、仕事のつながりをふやし、学ぶ機会の確保と同時に、多職種と交流ができるように、勉強会や研究会など学びながらも人との交流ができる場も必要である。

第4に、サポートは実家からに依拠していた。家事に関しては、食事の宅配サービスのエリア拡大や家事代行などのサービスが充実することも必要である。これにより、家事の負担の軽減や時間の確保に繋がり、生活の質が向上していく。

以上のことから、ケア・仕事・サポートに着目すると、今回は全体的に正規で働いている人の割合が多いが、子どもを気軽に見てくれる場所や、休みの取りやすさ、子どもの体調不良時の欠勤の扱い・有給休暇の充実されていなければ、多子を望まない状況に繋がっていた。急な預け先がなく、サポートが希薄化していること、家族の中で家事や育児などのケア役割が誰かが行わなければいけない状況に繋がっており、パートなどの働き方に繋がっていた。また、未婚の場合は、出会いのなさや時間のなさ、結婚に伴う負担などにより、ためらうことにつながっていた。これは、仕事との重なりで、専門職同士で研究会や勉強会を積極的に開催し、意見交流できる機会を増やしていくことで、プライベートでも交流をとれる人との出会いにも繋がると推察できる。閉鎖的な環境ではなく、開かれた地域になることで、専門職同士で悩みを共有し、課題を解決していくことで仕事の継続性に貢献できると同時に、プライベートでも支えてくれる人との出会いに繋がり、居場所の確保にも貢献できる。

現役世代にどのような働き方をしたのかによって、年金や将来の生活の安定性にもつながるため、多様な選択肢をとっても、誰もが生きやすい社会になっていく必要がある。そのために、まずは、結婚の有無や子どもの有無にかかわらず、誰もが休みを取りやすい環境を作っていくことが最優先事項である。また、家族内外で利用できる資源の確保や仕事を継続できる道筋および再就職支援の在り方なども検討していく必要があるだろう。これらは今後の課題として取り組んでいく。

## 謝辞

本研究にご協力いただいたご家族の皆様、心より感謝申し上げます。皆様からいただいた率直な声はとても勉強になります。また、江別市役所の皆さま、教育保育施設の皆さま、各大学の教職員並びに学生の皆さまをはじめ、関係機関の施設長ならびに職員の皆様、北翔大学総務課の鈴木様、調査に関わった全ての方に、心より感謝申し上げます。

今回、紙面の関係で記載できなかった内容については、別途報告させていただきます。今後も皆様のお知恵やお力をお借りしながら、江別市ないし北海道が少しでも暮らしやすい、子育てしやすい地域になっていくように教育と研究に精進していきますので、今後とも、なにとぞ、よろしくお願いいたします。